

社会の新しい出来事を日々伝える新聞は、その伝統を引き継ぎながらも、紙面構成や企画記事などを常に新たにしています。ただ、意識しながら見ていないと、その変化に気がつかないことが多いです。たとえば、今朝の朝日新聞を開き、4コマ漫画「ののちゃん」がどこにあるか見てください。社会面の右ページ、つまり後ろから3ページ目の右上にあります。この位置になったのは昨年4月1日です。その前日までは後ろから2ページ目にあたる左ページの左上にありました。当初はこの変更違和感を抱いた人も多かったと思いますが、今はもうすっかりなじんでいるはずですよ。

新聞は4月に紙面を大きく変えます。朝日新聞は昨年3月21日朝刊の1面左肩で、大きく「春の新紙面 4月スタート」との見出しで、「日曜に想う」「朝デジジャーナル」などの新企画を予告しました。東京本社発行紙面では、同じ日に中ほどの1ページを使って詳しくその内容や執筆陣を紹介したほか、翌22日から31日まで毎日、1面の題字下で「春の新紙面 4月スタート」として、「ワイドに見せる社会面 レイアウトを一新してお届け」(22日)、「数学に親しむ新コラム 日曜教育面、テーマは『学び』」(24日)などとPRしました。1面のコラム「天声人語」の筆者交代も、4月1日の1面で紹介されました。新紙面への強い思い入れ、意気込みを感じました。夕刊では、8年間連載された「ニッポン人・脈・記」が昨年3月28日に終了し、4月1日からは「〇〇をたどって」が始まりました。

今年は何の連載が終わり、どんな新企画が始まるのでしょうか。この16日朝刊1面で、昨年と同じように春からの新企画の一部が予告されました。22日に詳細が伝えられるようです。どんなサプライズが登場するのか。目が離せません。

(鈴木伸男 全国新聞教育研究協議会顧問)